

水戸市新たな市民会館整備基本計画
(概要版)

平成27年3月

水 戸 市

はじめに



水戸市民会館は、東日本大震災以降使用を停止しており、市民の芸術や文化の活動の場が失われていることから、市民や各種団体などから、早期の整備を求められております。

私は、芸術やスポーツ、そして、水戸の自然や歴史に親しみ、楽しむことのできる文化の成熟したまちを目指しており、世界に誇れる水戸芸術館の拠点性をさらに高めていくためにも、芸術文化の薫る新たなシンボル空間の形成という視点から、新市民会館は、泉町1丁目北地区に移転し、市街地再開発事業により整備することといたしました。

新市民会館は、水戸芸術館と一体となって芸術文化の活動を発信する拠点、新たな交流や活力、にぎわいが創出されるコンベンションの拠点、また、既存の公共施設や商店街、偕楽園や弘道館等に代表される歴史的観光資源との回遊性向上の拠点として、早期の事業化を図る必要があります。

そのため、新市民会館整備の基本理念を「多様な人々の交流と多彩な文化が織りなす、ひと・まちが輝くステージ」と定め、「芸術文化と出会い創造する拠点」、「人が集い、躍動し、にぎわう交流拠点」、「人にやさしく、アートな景観、文化あふれるまちの拠点」を基本方針として、施設計画、敷地計画等について専門的な視点を取り入れながら「水戸市新たな市民会館整備基本計画」の策定に取り組んでまいりました。

計画の策定にあたりましては、市議会に設置された市民会館整備調査特別委員会において、様々な角度から御審議をいただくとともに、各種団体へのヒアリング、市民アンケート、市民ワークショップ、意見公募手続等を通じて寄せられた市民からの意見を取り入れ、本計画を取りまとめることができたところであります。

計画の策定に御尽力いただきました皆様に心から感謝いたしますとともに、今後も、市民との協働により、開館後の運営を見据えた施設の在り方を検討し、市民に親しまれる新市民会館の早期整備を目指してまいりますので、皆様の御協力をお願い申し上げます。

平成27年3月 水戸市長 **高橋 靖**

—目 次—

1	新市民会館整備の基本的な考え方	1
2	施設計画	2
3	敷地計画	3
4	整備計画に関する検討	8
5	管理運営に関する検討	9

新市民会館整備の基本理念及び基本方針

新市民会館整備の基本理念

多様な人々の交流と多彩な文化が織りなす、ひと・まちが輝くステージ

【新市民会館整備の基本理念を実現するための3つの基本方針】

○芸術文化と出会い創造する拠点

- ・市民が様々な芸術や文化と出会い、主体的に活動できる場として、音楽や演劇、式典や講演会等の様々な演目に高水準で対応することのできる規模と設備を有する施設とします。
- ・未来を担う人々が芸術や文化にふれ、親しむことで、豊かな心と感性を育てることのできる施設とします。

○人が集い、躍動し、にぎわう交流拠点

- ・人々の交流により、みとの魅力を発信でき、コンベンション^{注1}の会場として利用しやすい施設とします。
- ・開かれた空間にいつでも人が集い、生き生きと活動し、まちとつながることで、にぎわいを生み出す施設とします。
- ・まちなかの交流拠点として、近隣商業施設や宿泊施設等と連携しながら、新たなにぎわい、交流を生み出し、活力あるまちづくりをリードする施設とします。

○人にやさしく、アートな景観、文化あふれるまちの拠点

- ・誰もが使いやすいユニバーサルデザイン^{注2}の理念を取り入れるとともに、環境に配慮した施設とします。
- ・市民の芸術や文化の拠点にふさわしい、周辺環境と調和した景観を創出する施設とします。
- ・芸術や文化の創造活動を通じて泉町1丁目南北地区をはじめとした近隣の商業施設、偕楽園や弘道館等の歴史的資源、既存の文化施設等と連携しながら、まちづくりに積極的に関わる施設とします。

新市民会館の機能及び規模

基本理念及び基本方針を満たす施設の機能及び規模について次のとおり定めます。

(1) ホールの規模

市民の芸術文化活動での使用に加え、人気アーティストのコンサートやイベントの誘致を推進するため、ホールの席数を2,000席程度と設定します。

(2) コンベンションの開催に求められる規模・機能

全国規模のコンベンションを積極的に誘致することを可能とするとともに、施設の稼働効率を高めるため、適正規模である3,000人程度のコンベンションの開催が可能な機能を備えるものとします。

注1 コンベンション：人を中心とした物や知識、情報などの交流を目的とした集会のこと。

注2 ユニバーサルデザイン：障害の有無、年齢、性別、言語等にかかわらず多様な人々が利用しやすいように施設や生活環境をデザインすること。

施設の基本的な構成

新市民会館は、基本理念及び基本方針を実現するために、様々な施設及び機能を備えたものとし、次に示す7の部門から構成します。

各部門において収容が可能な人数及び想定される面積は次の表のとおりであり、施設全体の規模としては、施設の配置等により変動しますが、概ね18,000～20,000㎡と想定されます。

部 門	各部門の機能	収容人数 (人)	想定面積 (㎡)
	代表的な室名		
①大ホール部門	市民の芸術文化の活動・鑑賞の場、 コンベンションの核となる場	2,000	6,000
	舞台、客席、ホワイエ ^{注3} 、楽屋等		
②多機能ホール部門	市民の芸術文化の活動・鑑賞の場、 コンベンションにフレキシブルに対応する場	500	1,200
	舞台、可動客席、ホワイエ、楽屋等		
③展示ホール部門	市民の芸術文化の活動・発表の場、 コンベンションの展示の場	300	600
	展示ホール（500㎡程度）、倉庫等		
④会議室部門	市民ニーズの高い会議室、 コンベンションの分科会の場	900	2,000
	大会議室、中会議室、小会議室等（15～20室程度）		
⑤創造支援部門	市民の芸術文化の活動・創造の場	—	800
	各種練習室、和室等（10～15室程度）		
⑥交流部門	市民が日常的に集える交流の場 市民への情報発信の場	—	1,000
	エントランスホール、ロビー、喫茶、託児室等		
⑦管理運営部門	市民の活動を支える管理、運営の場	—	6,400
	事務室、備蓄倉庫、機械室、廊下等		
合 計		3,700	18,000

新市民会館は、ユニバーサルデザインの理念を取り入れ、誰もが使いやすい施設とします。

耐震安全性の確保

新市民会館は不特定多数の方々を使用する施設であり、災害時は帰宅困難者の一時避難所となる施設であることから、大地震が発生した場合でも、施設の機能を維持する必要があります。

このため、官庁施設の総合耐震・対津波計画基準により構造体は「Ⅱ類」、建築非構造部材は「A類」、建築設備は「乙類」に相当する十分な耐震安全性を確保します。

^{注3} ホワイエ：劇場の入り口から客席にいたる空間。一般的には劇場のロビーのこと。（「劇場・音楽堂等で働く人のための舞台用語ハンドブック」（2014年3月 公益社団法人全国公立文化施設協会発行）から引用）

整備計画地の概要

(1) 整備計画地の現況

整備計画地の泉町1丁目北地区は、本市の中心市街地のほぼ中央に位置しており、路線バス等公共交通機関によるアクセス性に優れた場所にあります。

整備計画地周辺には、水戸芸術館や大規模商業施設、公共施設等が集中しており、新市民会館は、これらの施設との地理的な優位性を生かしながら有効に連携が図れる立地にあります。また、偕楽園や弘道館といった観光資源、歴史的資源へのアクセスの中間的な位置にあり、それぞれの施設を結ぶハブ機能が期待できる立地でもあります。

(2) 整備計画地の区域

整備計画地は、四方を道路で囲まれた下記に示す 約1 ha の区域と設定します。

【整備計画地の区域】



大ホールの形式

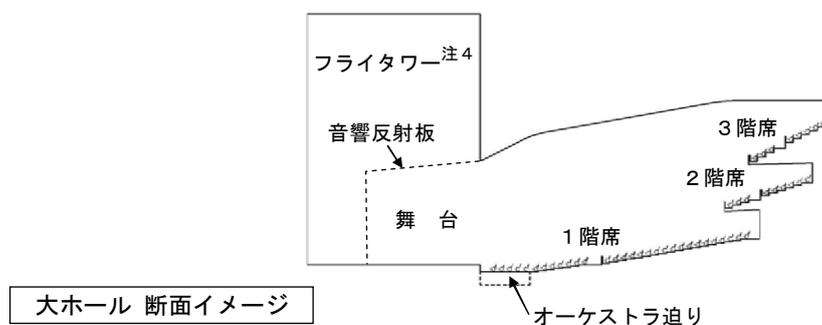
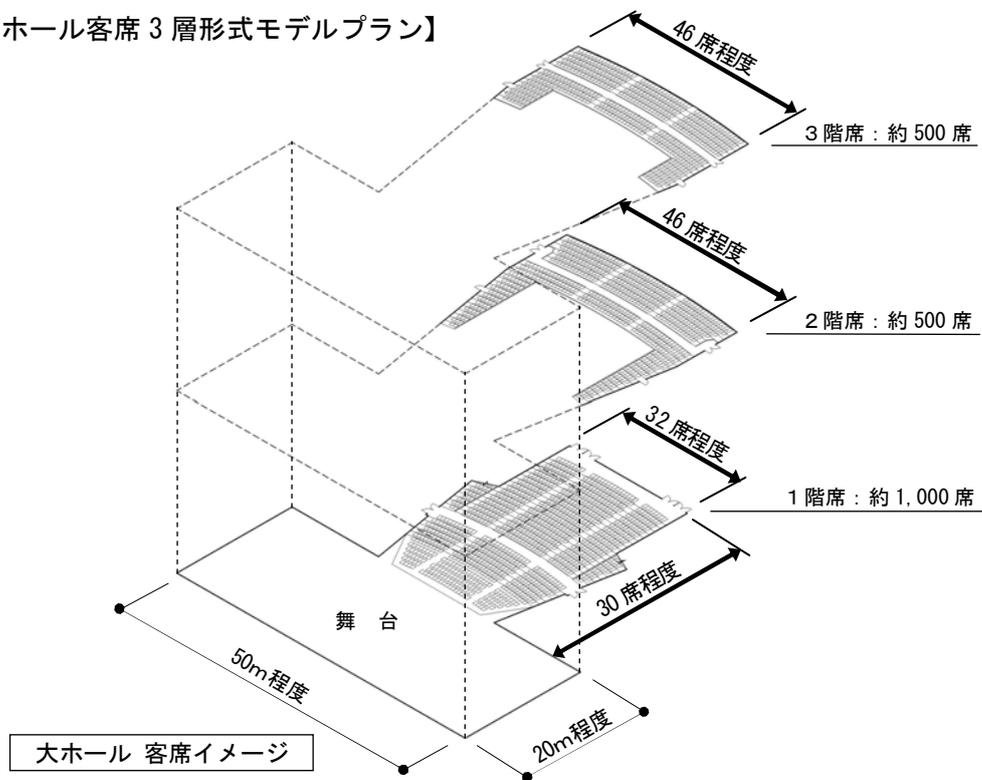
2,000席規模の多目的ホールの形式としては、客席が1階席のみのものから2階席、3階席、4階席まであるものが考えられますが、それぞれの特徴を総合的に評価して、新市民会館の大ホールは、客席3層形式で整備することとします。

大ホールは「多目的ホール・客席3層形式」とする。

【大ホールの特徴】

- ・様々な演目に対応できる多目的ホール
- ・人数規模に応じて客席数を区分できる使いやすい客席構成及び鑑賞しやすい客席配置
- ・多くの演目に柔軟に対応できる舞台間口、舞台奥行きを確保

【大ホール客席3層形式モデルプラン】



注4 フライタワー：舞台上部のバトンや照明等を設置するスペース。

大ホールの配置

新市民会館の大ホール（多目的ホール）の大きな特徴は、舞台上部にフライタワーと呼ばれる大きな施設空間が存在することにあります。

施設の全体配置を考えるうえで、フライタワーが景観に与える影響は大きく、また、舞台と舞台装置等の搬入出口は近接した位置に整備する必要があるため、整備計画地の四方道路への影響及び特徴を踏まえて、フライタワーを東側の市道上市 192 号線に向けて配置します。

大ホールのフライタワー及び舞台搬入出口は整備計画地東側（市道上市 192 号線側）に配置

動線計画

ゆとりある歩行者動線の確保

水戸芸術館から京成百貨店までの連続性を生み出すために、整備計画地の東側と西側の道路に安全で快適なゆとりある歩行者動線を確保するとともに、整備計画地内に通路としても利用できる空間を整備し、催し物がないときでも人が集い、にぎわいが創出される歩行者動線を確保します。

今後検討する新たな歩行者動線

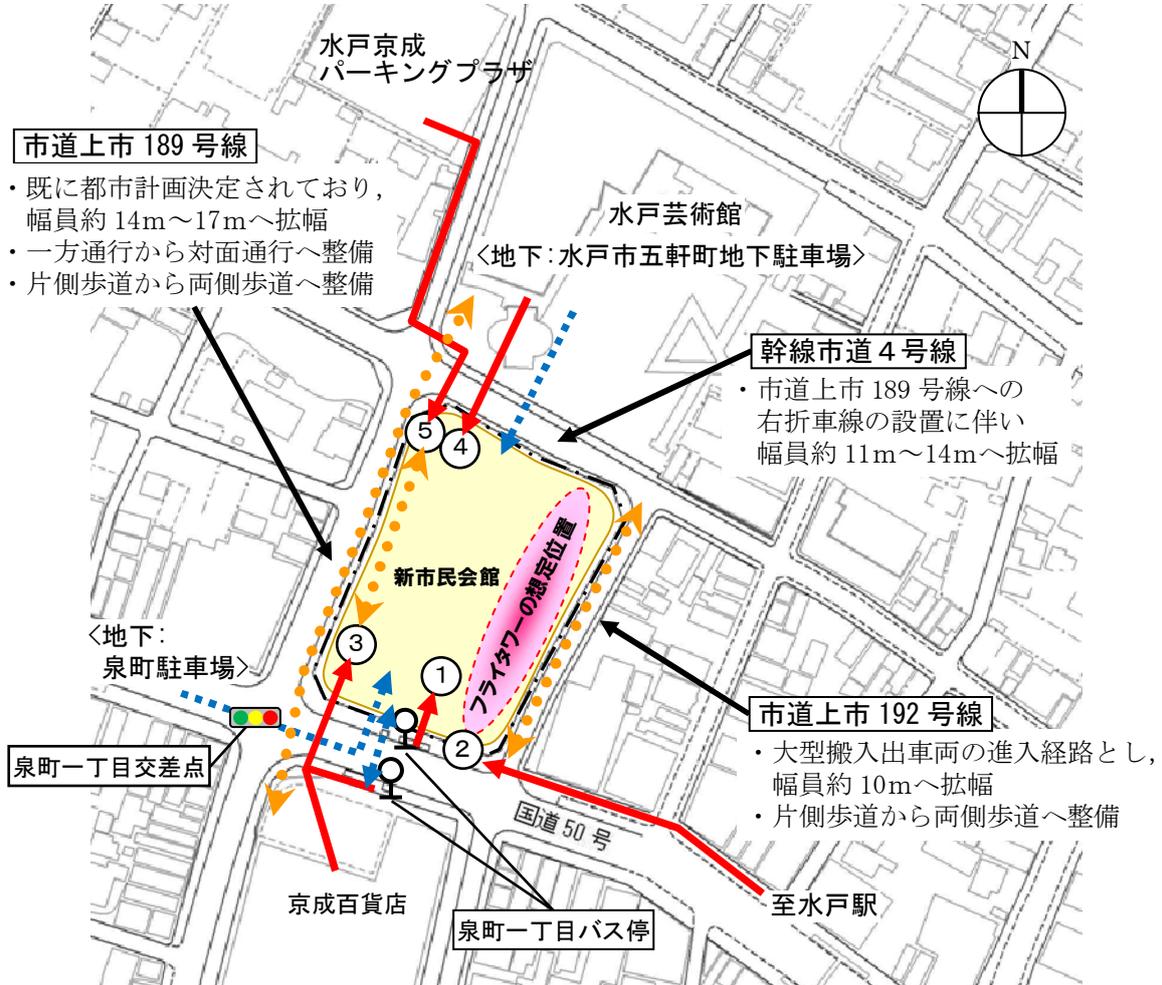
国道 50 号地下の泉町駐車場及び水戸芸術館地下の水戸市五軒町地下駐車場との連携を高めるとともに、来場者の利便性を確保するため、地下駐車場から地上に上がらずに直接、新市民会館へ来場する動線について検討します。

また、水戸芸術館及び新市民会館を核とした拠点づくりに向け、泉町 1 丁目南地区との連携を図るための新たな歩行者動線についても検討します。

周辺道路の整備

施設の配置に合わせて周辺道路を整備し、整備計画地周辺における円滑な交通処理と歩行者の安全を確保するとともに、さらなるアメニティ向上を図ります。

【歩行者動線及び周辺道路整備概要】



■ 動線凡例

- ← 現況歩行者動線
- ① 泉町一丁目バス停留所から
- ② 水戸駅から徒歩で来場
- ③ 国道 50 号南側歩道から
- ④ 水戸芸術館から
- ⑤ 水戸京成パーキングプラザから
- ↔ ゆとりある歩行者動線
- ↔ 今後検討する新たな歩行者動線

駐車場整備計画

(1) 駐車場整備目標台数の設定

新市民会館の整備による新規駐車場需要台数から既存駐車場利用可能台数を差し引いて駐車場整備の目標台数とします。

駐車場需要台数の算定の考え方は下記のとおりとします。

$$\text{駐車場需要台数} = \text{最大来場者数 (ア)} \times \text{自動車利用率 (イ)} \div \text{平均乗車人数 (ウ)}$$

大ホールを使用したコンサート等の開催時 2,000 人、全国規模コンベンションの開催時 3,000 人を最大来場者と想定した場合、駐車場需要台数は 708 台と見込まれます。このうち、既存の近隣駐車場における駐車可能台数は、空き駐車場率を 40.0%と想定すると 412 台と見込まれ、新市民会館の駐車場整備の目標台数を下記のとおり設定します。

$$\begin{aligned} \text{駐車場整備目標台数} &= \text{駐車場需要台数} - \text{既存駐車場における最少駐車可能台数} \\ &= 708 \text{ 台} - 412 \text{ 台} \\ &= 296 \text{ 台} \quad \Rightarrow \quad \text{概ね 300 台 とします。} \end{aligned}$$

(2) 駐車場整備計画

整備計画地内には、車いす利用者等のための駐車場を計画し利便性と安全性に配慮するとともに、一般来場者のための駐車場を整備計画地外に計画することによってコスト縮減を図るなど、駐車場整備についての基本的な考え方を下記のとおりとします。

車いす利用者等のための駐車場を整備計画地内へ確保するとともに、一般来場者のための駐車場は周辺地区での確保を目指します。

(3) 臨時的対応策

臨時的な駐車場需要が見込まれるときは、周辺約 500m 圏内に存在する民間駐車場（約 2,000 台程度）や整備計画地から徒歩圏内に位置している西の谷駐車場（約 290 台）を利用することで対応します。

あわせて、公共交通機関の利用促進を周知するほか、公共駐車場等からのパークアンドバスライドの活用などコンベンション等の開催に支障を来さないよう、多様な手法での対応を図ります。

(4) 自転車駐車場計画

近隣からの自転車利用を促進するための施設整備と安心して走行できる道路環境の整備を図ります。

多くの自転車利用者に対応するための十分な自転車駐車場を整備するとともに、偕楽園や弘道館をはじめとした周辺の観光資源へ気軽に来場者に訪れてもらうためのサイクルステーションの設置を検討します。

4

整備計画に関する検討

整備手法

泉町1丁目北地区内における従前の権利の活用が可能となる
第一種市街地再開発事業（組合施行）によって整備を進めます。

概算事業費

本体整備費及び整備計画地内駐車場整備費については、市街地再開発事業による保留床取得見込み額として、舞台等関連工事費及び備品購入費については、施設規模等を考慮して算出しました。

区分	概算事業費	備考
ア 新市民会館整備費	148～160億円	本体を18,000～20,000㎡、整備計画地内駐車場を2,000㎡と想定
イ 舞台等関連工事費	22億円	舞台機構工事費9億円、舞台照明工事費5億円、舞台音響工事費8億円
ウ 備品購入費	8億円	舞台関連備品費4億円、会議室等備品費4億円
エ その他経費	2億円	関連工事設計、監理、外部アドバイザー委託
合計	180～192億円	

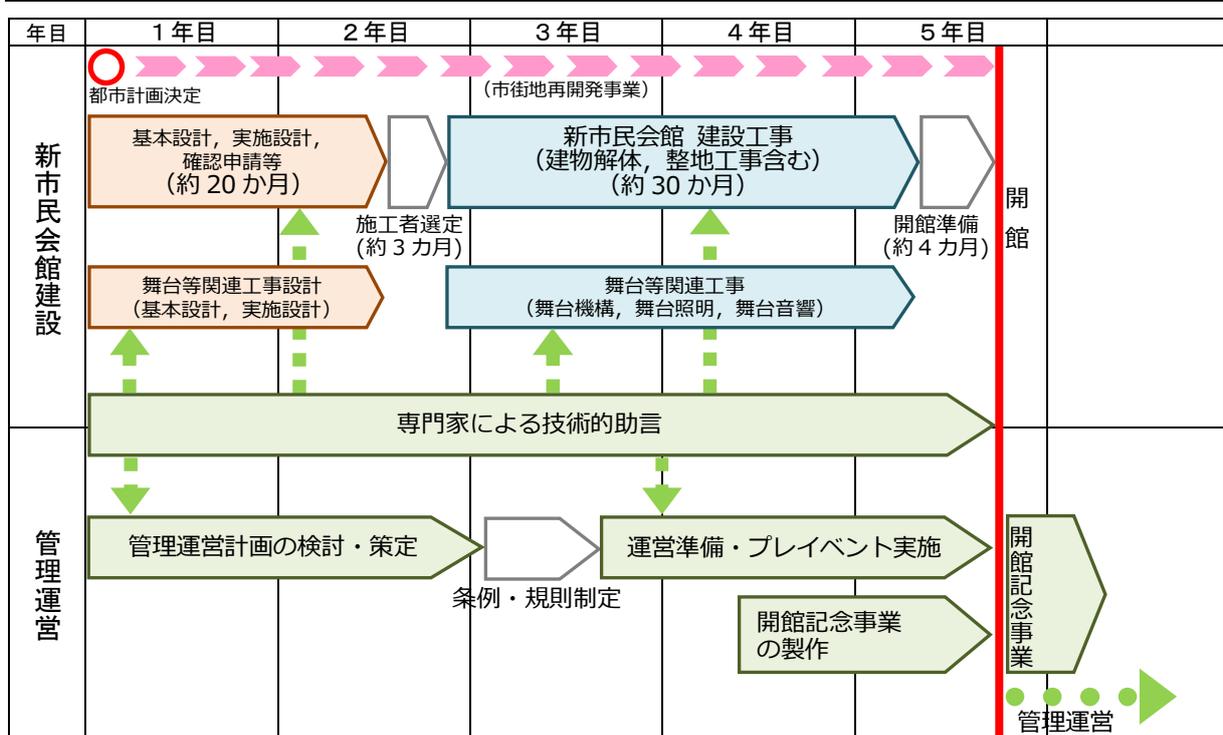
注1：概算事業費は、現段階での想定面積による算出であり、面積の増減に伴い変動します。

注2：新市民会館整備費は、市街地再開発（準備）組合による設計、工事等の計画内容により変動します。

注3：消費税率を10%として算出しております。

注4：周辺道路整備費、整備計画地外駐車場整備費等については、この事業費に含んでおりません。

整備スケジュール



基本理念の実現

(1) 基本理念及び基本方針から事業への展開

基本理念及び基本方針の実現に向け、次に掲げる事業を実施することとします。

・市民の芸術、文化との出会い	➡	『市民参加の自主事業』、『鑑賞機会の提供』
・市民が主体的に活動できる場	➡	『市民主体の芸術文化等の活動』
・豊かな心と感性を育む	➡	『芸術文化の普及・啓発』
・人々の交流、みとの魅力の発信	➡	『コンベンションの開催』
・開かれた空間、にぎわいの創出	➡	『まちなか憩いの空間の提供』、『市民協働イベント等の開催』
・近隣商業施設、宿泊施設等との連携、まちづくり	➡	『魅力度アップネットワークの構築』
・偕楽園や弘道館等の歴史的資源との連携		

(2) 事業実施の方向性

上記事業を実施するため、自主文化事業、支援事業、コンベンションの開催を大きな柱として展開し、その他の事業についても積極的に取り組みます。

ア 自主文化事業

『市民参加の自主事業』、『鑑賞機会の提供』、『芸術文化の普及・啓発』を実現するために、積極的に事業を展開します。

イ 支援事業

使用する方々の立場に立ってハード・ソフトの両面からサポートするなど、使いやすい施設として『鑑賞機会の提供』、『芸術文化の普及・啓発』に努めるとともに『市民主体の芸術文化等の活動』を支援します。

ウ コンベンションの開催

みとの魅力の発信とリピーターの確保につながるよう、地元の大学や各種学術会議、企業等への働きかけ等を通じて、積極的にコンベンションを誘致します。

エ その他の事業

行き交う人々が立ち寄ってくつろげる『まちなか憩いの空間の提供』や、そこに行けばいつでも何かがあるといった期待感があふれる『市民協働イベント等の開催』に努めます。まち全体が一体となって中心市街地の魅力の向上につながるような『魅力度アップネットワークの構築』を目指します。

(3) 水戸芸術館との連携による交流の創出と文化の向上

水戸芸術館と新市民会館を核とした魅力あふれるまちづくりを目指し、水戸芸術館を芸術の専門店、新市民会館を芸術や文化の百貨店のような関係と捉え、両施設の特性を生かした連携により相乗効果を生み出しながら交流の創出と文化の向上を図っていくことのできる管理運営計画を策定していきます。

水戸市新たな市民会館整備基本計画 (概要版)

編集・発行

水戸市 市民環境部 市民生活課
都市計画部 泉町・大工町周辺地区
開発事務所

水戸市中央1丁目4番1号

電話 029 (224) 1111
